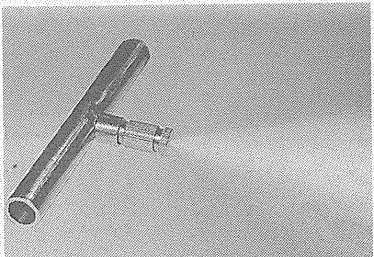


一步前進した鶏舎のクーリングシステム

東洋システム パドフォッグを推進

東洋システム(株) (安田勝彦社長―本社・岐阜県各務原市金属団地九七―四)は、今年の夏に、鶏舎のクーリングシステムの改善に取り組み、クーリングパッドとフォッグ(細霧)システムを組み合わせた「パドフォッグ」(商標)を開発、来年



ボタ落ちしないルービンフォッグ

夏に向けて販売を推進したいと発表した。クーリングパッドは、水源を確保できる農場での夏場対策としては、パッドの通過風速、鶏舎の気密性などに留意すれば効果が大きい。ただ、トンネル換気で鶏舎の長さが六十から七十を超え



粒子15ミクロンのフォッグを作り出すシステム
圧70kg/cm²のポンプ

る場合、鶏舎の後半部分の舎内温度がトリの体温発熱で三度C前後上昇する傾向がみられた。例えば外気温が三六度Cの場合、鶏舎の前方は二九度C、鶏舎の後方はいくに従って温度が徐々に上昇し、後部では三二度C前後になる現象であ

る。三〇度C以上の温度域では、一度Cの温度差がトリにとって重要といわれている。パドフォッグは、フォッグシステムを鶏舎の後半部に取り付け、クーリングパッドと一体的、システムのコントロールすることによって、後半部の温度上昇を一度C前

後に抑え、鶏舎全体のクーリング環境の改善を狙って開発したもの。パドフォッグは新設鶏舎と同時に既設クーリングパッド鶏舎にも設置可能で、東洋システムでは、開発中に得たデータをベースに、鶏舎ごとの最適設計、提案を進めている。

フォッグシステムには、粒子が十五ミと小さく、機器を濡らしにくく、換気輪道に乗せやすいことが特徴のルービンフォッグ(同社が総輸入発売元)を勧めたい。なお、パドフォッグには特許が申請されている。